



「お互いを信じあう力」

9月に入ってから、朝や昼休憩でバトンパスを練習するクラスを見かけるようになりました。今回は、体育大会を直前に控え、皆さんにも感じてほしいお話がありましたのでご紹介します。それは、2008年に開催された北京オリンピックの陸上競技男子4×100mリレーで、見事、銀メダルを勝ち取ったお話です（当初は銅メダルでしたが、後日、ジャマイカの失格により銀メダルに繰り上がりました）。



当時の日本は、世界の壁に阻まれ続けており、日本人短距離選手で100mのファイナリストや9秒台を出す選手は一人もいませんでした。各国はスピードを誇るメンバーをそろえており、日本の劣勢は否めませんでした。日本がそれを補うために磨いた技術は、バトンパスです。一般的に採用されているパスは、オーバーハンドパス。メリットはバトンパスの瞬間に選手間が広く取れることにより、その分タイムを短縮できるところにあります。しかし、日本が選択したパスは、アンダーハンドパス。このパスのメリットは、次走者は走りのフォームをほとんど崩されることがなく、スピードを落とさずにバトンを受け取ることができ、またバトンを落とすリスクが少ないことが挙げられます。2001年から日本はこのアンダーハンドパスを採用し、年々、パスの技術は向上しながら受け継がれ、円熟味が増してきました。その結果、前回のアテネオリンピックでは、第四位とメダルまであとわずかとなり、手が届くところまできました。

今回のリレーメンバーも、前回と同じメンバーで塚原直貴選手、末續慎吾選手、高平慎士選手、朝原宣治選手であったことから、メダル獲得を期待させるメンバーでした。予選で米国など強豪国が相次いでバトンミスをして失格、千載一遇のチャンスが巡ってきました。海外勢に劣る個々のスピードを補ったのが高い技術を誇るバトンパス。決勝では勢いよく飛び出した第一走者である塚原選手から第二走者の末続選手、そして第三走者である高平選手へと流れるような受け渡しでベテランのアンカー朝原選手へとつなぎ、ブラジルを振り切って3位に入りました。その際、電光掲示板で3位を確認した朝原選手は、うれしさのあまり持っていたバトンを天に向かってほうり投げた光景は、今でも日本陸上界の名場面として刻まれています。

結果は前述のとおりですが、彼らは、目標に向けて並々ならぬ努力を積み重ねており、バトンパスの際、後ろを振り向かなくても全力疾走できるまでの信頼関係を築き上げていました。彼らには、「絶対に渡してくれる」「絶対に渡す」という信頼感、お互いがお互いを信じあえたからこそ成しえた成果だと思います。

明後日の体育大会では、レースという特性上、順位が出ることは仕方ありません。しかし、これまでに皆さんが協力し合い、準備してきたということは紛れもない事実です。その頑張ってきた事実を信じ、経験を十分に発揮して、思い出に残る素晴らしい体育大会になることを祈っています。がんばってください。

双葉学園 寝屋川市立第二中学校
校長 清水 通生

9/6(水)～7(木) 2年生 林間学舎 (貝塚方面)

天候にも恵まれた72期生の林間学舎ではクラスレク、スプーンづくり体験、夕食のカレー調理、オリエンテーリングなどの取組を通して仲間との絆を育む絶好の機会となりました。



9/15(金)～16(土) 1年生 林間学舎 (滋賀方面)

琵琶湖にてカヌー・ドラゴンボート体験を行い、クラス対抗レースはととても盛り上がりしました。その後、宿舎の休暇村へ移動し、夕食後にレクを楽しみました。二日目は長浜市街を班毎に散策し、ガラス工芸やレトロな街並みを楽しみました。



部活動の主な成績

陸上部

北河内地区中学校陸上競技記録会 男子ジャベリックスロー	第2位
北河内地区中学秋季陸上競技大会 男子2・3年 400m 女子3年砲丸投	第2位 第2位

水泳部

第62回北河内地区中学校水泳競技大会 全学年男子 100m 背泳ぎ	準優勝
第39回北河内地区中学校新人水泳競技大会 全学年男子 100m 背泳ぎ	第3位

10月の行事予定

2日(月) 代休
6日(金) 英検
12日(木) 中間テスト (~10/13)
20日(金) 生徒会役員選挙
31日(火) 3年合唱コンクール

11月の行事予定

2日(木) 文化発表会
3日(金) 双葉校区文化交流会
7日(火) 1・2年 教育相談日 (11/9,10,14)
9日(木) 3年 進路懇談会 (11/10,13,14)
15日(水) 避難訓練
17日(金) 1年 車いすバスケット
21日(火) 期末テスト (11/22,24)
30日(木) 2年 ディベート D-1 グランプリ